

# 令和5年度香川県薬事審議会議事録

日 時： 令和6年2月2日(金) 15:00~16:00  
場 所： 香川県社会福祉総合センター7階 特別会議室  
出席委員： 飯原 なおみ 鎌田 守恭 久間 一徳 (副会長)  
久米川 啓 (会長) 小坂 信二 谷本 小百合  
富野 和憲 平井 満泰 平山 貴章  
正木 浩二 増田 由美子 松浦 佳子  
松下 靖徳 (五十音順・敬称略)

議 題： 薬務行政の現状について  
薬剤師確保について

## 内容

薬務行政の現状及び薬剤師確保について事務局から説明を行い、各委員から以下のとおり、意見が述べられた。

委員 薬剤師の偏在については、地域によってかなりばらつきが見られるということで、小豆は、見合った病院薬剤師が補充されておらず、西部についても小豆同様、病院薬剤師が少ないという状況です。薬剤師偏在指標の数式の推計の業務量については、医師の働き方改革で、病院では、医師の業務の一部を薬剤師に振分けて、業務量が以前に比べて、かなり増えているのが現状です。そのようなこともあり、病院薬剤師が、現行の人数では不足気味です。また、医療機関を対象としたアンケートの自由意見にもありましたが、病院薬剤師は、調剤薬局との賃金格差(初任給)が大きいというところで、薬学生が、大学を卒業するまでに奨学金を借りて、就職と同時に返済しないといけないという状況もあり、初任給が高い薬局に新卒の薬剤師が流れていくといった現状もあります。このような様々な要因があって、病院薬剤師の応募が少ないのが現状だと思います。

委員 診療報酬改定が、2年間でプラス0.88%では、薬剤師の給料に反映できないという問題もあるかと思えます。

委員 病院薬剤師の給料に関していえば、多くの民間病院も含め、人事院が出している給料表を基準に設けておりますので、それがベースアップすれば、民間病院も横並びで給料が上がると思うのですが、なかなか難しいのが現状です。

委員 薬剤師偏在指標として、数値化することで地域によって、かなり差があるということが可視化できたのは、とても良いことだと思います。今後、この値がどのように変化していくか、また、色々な施策がどういった形で効果を現していくか、見ていくことができます。

委員 薬剤師だけではなく、看護師も少なく困っていて、もっと若い人が医療職に興味を持っていただきたいです。